ゆめたろう

史跡ウォーキングマップ

見て歩いて 伝説を体感しよう！

TAKETOYO

こんにちは。ぼく、ゆめたろう。
ぼくが、町のキャラクターマークだってことは、
みんなよく知ってるよね。
そして、先祖が浦島太郎だってことも。
じゃあ、そのぼくの先祖が
武豊生まれの武豊育ちだったということは？
えっ、知らないって!? う〜ん、それは残念…。
それじゃあ今からぼくが、
現在も町内に残ってる、
先祖浦島太郎の史跡を
案内するよ。
そうすれば、
本当にこの町にぼくの
先祖がいたということが
わかってもらえるんじゃないかな。
さあ、ぼくと一緒に、
浦島太郎の史跡めぐりに出発しよう！

武豊のむかしばなし

浦島太郎の故郷

「むかしむかし、浦島は、助けた亀に連れられて、竜宮城へ来てみれば、絵にも描けない美しさ…。」

今の子どもたちの中には、この歌を知らん子もあろうが、わしら、年寄りの者には、とてもなつかしい歌じゃ。

昔は、テレビっていう、ええものもなかったし、今のように、勉強、勉強としごかれることもなかったから、家の手伝いさえ済ましたら、子どもたちは、明るいうち、外で遊びほうけていたもんさ。

遅い夕食が済めば、寝るまでの間、じいさん、ばあさんに、いろんな昔話をせがんだものさ。

お伽ばなしもあったし、怖い話もあったし、もう何度も聞いたものもあったが、子どもたちは、目を輝かせて、からだを乗り出して、それからどうなったのって、問いかけたもんさ。

すすけた裸電球の下で、しわ深いじいさんばあさんが、ぽつりぽつりと話してくれる姿が、今でも、目をつぶると浮かんでくる。

あのころは、今のように「断絶」なんかということばはなかったよのう…。老人と孫との間に、暖かい血が通っとったし、親たちも、そういったものをとても大切にしてくれていたっけ。

わしは、この浦島太郎は、この東大高で生まれて、富貴村に帰ったと、今でも信じとるんだ。

そんなばかな、あの話は丹後の国や寝覚の床の話だと言わっしゃるが、ちょっと待っておくんなさい。

わしがそう信じとるのは、それなりのわけがありますのじゃ。まず、わしが話を聞いてもらいたいもんじゃ。

おまえさんは、富貴村の東大高の、知里付神社という神さんの東南に、「負亀」という土地があることを知っとりなさるだろうか。

この土地には、浦島屋敷と呼んでいる一画もありますのじゃ。

浦島太郎が、助けた亀の背に負ぶさって、ここから出かけたから、負亀というているんで、りっぱな証拠ではござんせんか。

富貴のことを、いろんなふうに言っとるようだが、この負亀を音で読みなさってごろうじろ。それ、フキと読めますじゃろうが。これが富貴という村の本当の意味と言えますまいか。

それればかりではござんせんよ。負亀の東には、浦島川だとか、浦ノ島という土地もありますのじゃ。この浦ノ島へは、海亀がたくさんやってきて産卵したもんだと、うちのじいさんに聞いたこともある。

この郷の氏神さんは知里付さんというて、近郷にも名高いお社じゃが、第十一代垂仁天皇さまの二十六年菊月に建てられなさったという言い伝えじゃから、浦島太郎が故郷へ帰った天長二年よりも、ずうっと昔のお社じゃ。宮司さんに聞いた話じゃ、このお社には、浦島太郎の玉手箱が、ちゃんとしまってあるそうな。わしも覚えとるが、前のお社の棟瓦は亀の姿をしておったと思うがのう。

おまえさん、富貴の南の海岸に、四海波というとこがあるのを知っとりなさるか。

昔はこの辺は海のきれいなとこで、富貴では、終戦後も長い間、海水浴で大にぎわいしたもんだが、この四海波は、殊に景色がええところで、名古屋の金持ちの別荘が並んどったが、あすこの堤防で、じっと海を眺めてごらんなされ。波の形が変わっとるんで、昔の人は、竜宮城の入り口だと言っとった。

わしがじいさんの話だと、あの浜辺は「うめきの浜」というて、浦島太郎が、玉手箱を開けたため、白髪になってしもうて、くやしくてうめいた所じゃということだった。

この浜から一丁くらい西には、翁塚という古い塚もあるし、浦島観音さんもまつられておる。

東大高の真楽寺というお寺さんには、ちゃんと亀のお墓が残されていますのじゃ。

昔、弘法大師さんが、こちらへおいでなさったとき、ああ、ここは浦島太郎の出生地だと言われて、燕子花と松と竹を植えなさったのだが、燕子花は四季咲きになり、大正天皇さまが皇太子さんのとき、ご覧になりましたのさ。枯れてしもうたが、松は斑入になり、竹は年中筍が出たそうな。

富貴の市場には「竜宮神社」という神さんがあって、富貴の浜が海水浴でにぎわったころ、ようお参りがあったものだったが…。

とにかく、これだけ証拠がそろっとっても、浦島太郎の土地じゃないと言われますかの。

武豊のむかしばなし
第十四話「浦島太郎の故郷」より

江戸時代の東大高村絵図にも伝説を裏付ける証拠が！

URASHIMATARO

この地図は、天保十五年に作成された東大高村の絵地図です。この古い地図にも、伝説を裏付ける証しが、地名として残されています。

発行／武豊町企画政策課
〒470-2392 愛知県知多郡武豊町字長尾山2 ☎0569-72-1111